



編集室より

JB (ジョイント・尾州) パリ展に参加した。その内容は特集を組んだので、ご覧いただくとして、今回のパリ訪問で一番感じたのは来場者であるフランス人の巧みな発言力である。ボキャブラリー (語彙) の豊富さとうまさである。JB会場を見て感想を求めると「美しい」とか「きれい」という言葉が次々と飛び出す。パリ展での展示は3階に墨コレクション、1階と2階に服地を展示したが、木曽川をテーマにしたビジュアルは2階、階段、1階に銀のプレートを敷いて、流れを表しそのサイドに花に見せかけた服地を展示したが、その様が美しくてきれいというわけ。その背景にはこの展示法が世界の美術文化の殿堂であるルーヴル宮に「見事にマッチしている」というものだ。施工クリエイターはパリの専門家だったが、施工日はもちろん会期中、何回も会場を訪れて乱れを直していた。この専門家は会場に親と思われる人を同道し、自慢げに自分の作成した“芸術品”を説明していた。フランス人の「美意識」と職人氣質を感じた。世界に打って出るためには国際的美意識やこだわり続ける職人氣質が必要なかもしれない。

